

2014年2月28日（日）

開催報告書
プロフェッショナルの英語作法
発表後の懇親会で孤立したあなたのために……

城下 賢一（KUASU 研究員）
<http://kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/>

英語使用の頻度や重要性は、研究はもちろんのこと、教育や大学実務においても高まっています。しかし、それぞれの場で適切な英語表現について、これまでの学習環境では必ずしも十分に修得することができていないように思われます。そこで、研究者としてキャリア形成するために望ましい、**研究・教育等のための実践的英語表現**を学習し、模擬演習を行うワークショップを企画・開催しました。

2日間にわたり、教職員を中心に、KUASU 内外から延べ 19 名（各 12 名・7 名）が参加し、講師の指導の下、発話練習なども行い、研究者としての英語使用についての理解を深めるとともに、参加者からの体験談や提供資料などもあり、当初の意図以上に達成感の得られたワークショップとなり、参加者からも同様の感想をいただくことができました。

■日時・プログラム

(1) 2014年2月24日（月）14:30-16:30頃

学術会議に参加する

- | | |
|---------------------|------|
| ① 日本人にとっての英語（総説） | 乙部、林 |
| ② 日英のチェアの流儀に関する意見交換 | 自由議論 |
| ③ 実践練習 | |

(2) 2014年2月26日（水）14:30-16:30頃

大学で講義・演習を行う

- | | |
|----------------|------|
| ① 演習と日本での実践の差異 | 乙部、林 |
| ② 講義・演習経験の共有 | 自由議論 |

■講師

乙部 延剛

立命館大学政策科学部助教

Johns Hopkins University 院修了（Ph.D. in Political Science）

林 樹

京都大学アジア研究教育ユニット研究員

University of Hawaii at Manoa 院修了（Ph.D. in Philosophy）

（次ページ以降、配布資料の一部を添付 ➤）

学会を生き延びるには・・・：日本と英米圏、それぞれの学会作法

I. 日本の学会、英語圏の学会

日本の学会

- ・ フルペーパーの提出が基本
- ・ 原稿=ほぼ完成稿
- ・ 報告スタイル：読み上げ、もしくはパワポ
- ・ 方向時間 30分～1時間

英語圏（北米を中心としたそれ）

- ・ 未完成の論考でも大丈夫。ただし、論文が未完成でよいということではない。
- ・ 報告スタイル：分野によって異なる。だが、経験則でいえば、原稿読み上げは非ネイティブは避けた方が無難。
- ・ 問いの重要性。
- ・ 様々な種類：パネル、ワークショップ、invited talk, round table、etc...

II. 司会の役割

- ・ 名前の発音
- ・ 報告時間、順番の提案
- ・ タイムキーピング
- ・ 念のために質問を準備

III. 報告者の役割

- ・ 報告時間とペーパー：15分でダブルスペース（300words/page）7枚。
- ・ スライドは6～12枚。日本語よりフォントは大きめで、一枚あたりの情報量は少ない方が望ましい。
- ・ 配布プリント（handout）をどうするか。

IV. 討論者の役割

- ・ 「花形」としての討論者

V. 聴衆とのやり取り

- ・ 質問の作法：3、4分程度が一般的。質問～質問の背景の説明～質問をもう一度違う言葉でまとめる、という流れが定番。
- ・ 応答の作法：質疑応答というより、全体で議論を共有していく感覚。

VI. 学会が終わった後で・・・

- ・ 苦行としての懇親会
- ・ elevator talk
- ・ 細い線をどう太くしていくか？

ワークショップ概論：懇親会で孤立しないためには、どんな英語で話せばよいのか？

乙部延剛（立命館大学政策科学部）

I. わたしたちは、どのような英語を身につけるべきなのか？

- ・ どういう状況で英語を用いる必要があるのか。目的は何か？
- ・ 分野、状況による違い
- ・ ネイティブの英語と、lingua franca としての英語
- ・ だが、lingua franca としての英語とは何か？
- ・ 「ネイティブに近い英語を話す必要はない」は、「ブローカンな英語で構わない」ではない。

II. 日本語話者の英語：個人的経験に基づく傾向と対策

1. 完全な英語を目指す必要は全くないが、手を抜いてはいけない。

2. 英語で自分が間違える点、留意すべき点

- ・ 文章は最後まで完成させ、はっきりと話す。
- ・ 発音の区別：r と l、s と sh、t と th、v と b そして母音たち。
- ・ Because...という文章の始め方

3. どこまで、日本語話者の言葉、所作、くせを解消すべきなのか？

- ・ 身振りをどうするか
- ・ 音程（？）の問題
- ・ 翻訳不可能な言葉

英語モデレーションのガイドライン

1. モデレーターの役割

パネルのまとめ役、司会者、つまり指揮的な役割

2. カンファレンス前（とパネル前）にすること

パネリストとコンタクトをとる（パネル前に話す）

パネルのテーマの趣旨を理解する

どんな人がカンファレンスに来るのか把握する

パネリストのペーパーを（あれば）読む

質問を考える

3. だいたいの流れ

Opening

Good morning/afternoon. Welcome to xxx (session title).* I am xxx (name) from xxx (institution), and I will be serving as your moderator for this session.

We have # presenters, xxx (name), xxx (name) and xxx (name). Each presentation will be ## minutes. We will reserve ## minutes for discussion after each presentation (or: we will reserve ## minutes for discussion after all of the presentations).

Our first presenter is xxx (name) and the title of his/her presentation is xxx.* Please welcome xxx (name).

Discussion

Thank you, xxx (name).* We have about ## minutes for questions and comments. Would anyone like to start?

Transition

Thank you very much.* Now I would like to invite our next presenter, xxx (name). The title of his/her presentation is xxx. Please welcome xxx (name).

Closing

Let's thank all the presenters one more time, as well as the audience for their participation. We are out of time for this session, but I hope we can continue the discussion more informally later (Announcement, if any).

4. 違った言い回し

Opening

自己紹介を先にする場合は、

I am xxx... I welcome you to xxx (session title).

セッション名だけでなくテーマについて少し話す場合はこの方が良いかも。

I welcome you to xxx (session title). There are important issues associated with this theme, such as X, Y, Z, which will be addressed by our presenters in this session.

発表者の紹介の時に、タイトルよりテーマで紹介する場合は、

Our first presenter is xxx (name) and he/she will be speaking to us on xxx (topic). Please welcome xxx (name).

Discussion

Thank you very much, xxx (name) だけではドライだと感じる場合は、

Thank you very much for your (wonderful/inspiring/insightful) presentation
という感じでなにかしら派手な形容詞を入れる。

手が複数上がっているときは

I see several hands. Let us go first, second, and third (合図しながら).

時間がない場合

Unfortunately the time is up. I am sorry but please continue the discussion after the session.

時間が無くなってきた場合

We have # minutes left for discussion, so we can address # more questions.

この時点で上がった手が多過ぎの場合は最初のいくつか決めた後、

I am sorry but the rest of the questions need to be addressed after the session. Thank you.

Transition

Thank you very much だけではドライだと感じる場合は、

Thank you very much for the (stimulating/engaging/exciting) discussion

という感じで派手な形容詞を入れる。Discussion 部分の形容詞も使えるが、wonderful は変かも。

ゲストレクチャー

Opening

I am xxx (name), a xxx (job) at xxx (institution).* I am pleased/honored to introduce to you xxx (guest), who is a xxx (job) at xxx (institution).

I have known xxx (guest) from xxx (occasion). XXX (talk about how we met, what we talked about, what we did, and maybe something funny).

His/her research is in xxx (field). XXX (outline his/her research, publications and achievements). What he/she will be lecturing about today is xxx (lecture topic).

Now I proudly present to you xxx (guest).

Discussion

Thank you very much, xxx (guest), for a wonderful/brilliant/inspiring lecture. Now we have plenty of time for discussion. Please raise your hand for questions and comments.

Closing

Once again, I would like to thank you very much for your wonderful talk, xxx (guest). I hope we can do this again.

*自分の講義にゲストを呼んだ場合は自己紹介は不要。自分の講義の場合は

Today we have a guest, xxx (guest) from xxx (institution). He/she is a xxx (job) there, and has kindly agreed to come and give a lecture today.

英語での授業

I. 「英語での授業」とは何なのか？

- ・ 「英語での授業」が意味しうる、いくつかの授業のタイプ
 1. 日本の講義スタイルを、そのまま英語に直したもの
 2. 英語圏（とりわけ、北米、さらにいうなら、小人数）の大学の授業（をモデルにしたもの）
 3. 留学生を対象とした授業
 4. 英語の学習にもなる授業
 5. 1～5 のすべて
- ・ 英語での授業にまつわる困難は、こうした違いについて、カリキュラムを組む側や受講生の間で認識のずれがあること。

II. 英語圏の大学の授業と、日本の大学の授業

- 1) とはいっても、英語圏の大学の授業における下のような特徴は、上記のどのような形式の授業においても有効だといえるのではないか
 - ・ 授業において、明快な軸、テーマ、あるいは問い合わせが存在
 - ・ 各回の授業の連関が明快
 - ・ 参加型の授業
 - ・ 授業評価基準が明確

その理由

- ・ 中身が明確な授業の方が、教える側、受講する側にとって混乱の余地が生じにくい
 - ・ 受講生が非ネイティブである場合、90分間集中力を保つのは困難であり、参加型のほうが効果が高い
- 2) 逆に、英語圏の大学と、日本の大学では事情が大きく異なる側面も：総じて、日本の大学はリソースが少ない
 - ・ ひとつの授業に教員、学生が費やす時間
 - ・ リーディングの量

III. シラバスと授業運営

- 1) シラバスの留意点
 - ・ 授業概要（course description）の重要性

- 中心的な問い合わせを設定すること
- それぞれの回のタイトル、テーマも、なるべく明確に
- それぞれの経験のシェア

2) 授業運営

3) 日本の大学の形式とどう折り合いをつけるか

- シラバスの記入ルール
- 受講生にどう伝えるか
- リーディングをどうするか

4) 講師、あるいは受講生の英語力が不十分なときや、ばらつきが多いときにどうするか

- まずは英語で挑戦して貰う、等のルールをつくるという手も
- 黒板、ハンドアウトを効果的に用いる
- フィードバックを得られる機会を増やすことで英語力ならびに理解度を確認する
- 徐々に山を登っていく形の課題（評価方式）にする

5) どうやれば受講生が参加しやすくなるか？

6) それぞれの経験のシェア

IV. 授業での英語

- 1) module, course, class…
- 2) 授業で用いる特有の表現